

平成 19 年度特別奨励研究計画書

研究者名	(フリガナ) ムラヤマ サトシ 村山 聡	学部等名	教育学部	職名	教授
内 線	1571	Mail	muras@ed.kagawa-u.ac.jp		
研 究 名	歴史的溜池経済地域における超学際的エコツーリズム —南ボヘミアと備讃瀬戸の持続的比較研究—				
研究組織					
氏 名	学部等名・職名		分担事項・役割等		
村山 聡 新見 治 原 直行 Josef Grulich Pavel Matlas Vaclav Buzek	教育学部・教授 教育学部・教授・学部長 経済学部・助教授 南ボヘミア大学・講師 ジェボーニュ文書館・学芸員 南ボヘミア大学・教授・学長		統括・歴史学的社会経済分析 水文学的地域分析 エコツーリズムの比較研究 (海外協力者) 学術調査に関する助言 (海外協力者) 史料調査に関する助言 (海外協力者) 学術協力関係に関する助言		
研究の目的・意義 世界に二つとない溜池経済と溜池文化の歴史を有しているのが、日本の香川県備讃瀬戸地域とチェコ共和国の南ボヘミアである。香川県の場合は水不足を解消し、田畑への水の恒久的な供給が中心目的とされ、日本最古の空海における満濃池築造以来、多くの溜池が建設されて来た。南ボヘミアの場合は、湿地帯でもあり、洪水などを防ぐため、また、鯉の養殖、ビール醸造、農業用水その他に使用される水の確保などの理由で多くの溜池が中世以来作られて来た。 この二つの地域には大きな差異もある。南ボヘミアでは、生態系の保全を基盤に、多様なエコツーリズムの可能性がある。また、中世以来のルネサンス建築からゴシック建築などによって彩られる多くの城を有し、深い伝統のある城下町が多数存在する歴史的基盤に基づき、共産主義時代の閉鎖された空間から、重厚で多様な開放的観光地域に変貌しつつある。それに対して、香川県の場合は、稲作を縮減し、スプロール現象で住宅地が拡大し、瀬戸内のこの上ない自然を有しつつも、長期的に築き上げられて来た人工の美的自然景観を失いつつあり、観光客は減少傾向にある。また、コンクリートの護岸工事が一般化している溜池地域のあり方は、今後、地域の観光あるいは生活資源としての見直しが必要である。 地域に根ざした大学が今後新たな生活世界を構築していくためには、両者を学術的に比較しながら、多様な超学際的な研究への進展を目指すことが肝要である。両地域に関する歴史的・地域資源に関する基礎研究を通じて、親密な継続的交流関係の実現を目指したい。					
研究による効果 ① 学術的効果 研究代表者村山が南ボヘミアの研究者の協力を得て行なう歴史人口学的家族史研究は、これまで長年の蓄積のある研究成果に基づき、今回新たに発見した世界レベルでも貴重な史料を分析することにより、斬新な学術的成果を提示する。3年間という限られた研究期間における成果としては、地域情報の同質性と差異性を明確にすることを第一の課題とすることにより、異質な社会の情報基盤の差異を明らかにし、教育研究ならびに学术交流の情報基盤を精査する。また、水文学を専門とする新見は、現在の溜池経済と文化の比較研究を通じて、世界に二つとない溜池地域の交流を可能にする情報基盤を学術的に整理する。また、原を中心に行なうエコツーリズムの比較研究は、備讃瀬戸と南ボヘミアの双方向で、両者それぞれに適用可能な学術的基盤を整備する。 ② 社会的効果 多数の人工的溜池を持つ両地域を学術的に比較し、両者の特色を明らかにすることは、その人工的な構築物空間の希少性を明確化し、それを通じて、具体的なエコツーリズム運動への展開を可能とする。また、その際、この研究で取り上げる歴史人口学的家族史研究、水文学的地理研究ならびにエコツーリズムの社会経済的研究に加えて、徐々に農学および工学などの自然科学分野あるいは医学や心理学等、他の専門分野の研究者との協力関係を構築することにより、生活世界としての溜池経済・文化の社会的貢献の可能性が明確化され、新たな地域活性化運動を展開することができる。また、大学を中核とした地域空間の継続的な交流関係を構築することにより、相互の刺激に基づく地域力の向上が可能となる。					

具体的な研究実施計画

平成19年度：

研究代表者は、平成18年度において助成を受けている科学研究費の海外学術調査を利用して、すでに南ボヘミア大学を訪問し、専門とする歴史人口学的家族史研究に関する講演と博士課程の学生を中心にしたゼミナールを行ない、現地の研究者との交流を開始している。研究代表者と専門を同じくする同大学のブジェック学長とは、この学術的交流関係のほかに、特に、同大学で実施されている溜池経済とエコツーリズムに関する報告を受け、協力関係の継続を確約している。また、研究代表者のこれまでの研究成果は、チェコの歴史学会誌にチェコ語に翻訳され公表される予定であり、今後、さらに親密な交流関係が期待されている。

このような交流関係ならびに資料調査から得られた基本情報に基づき、さらなる調査を平成19年度は、2度実施する予定である。また、香川県内の調査については、当該年度全般を通じて、研究を継続的に行なっていく。

- (1) 11月初旬：南ボヘミアのエコツーリズムと溜池に関する調査（原・村山担当）
- (2) 1月初旬：南ボヘミアの歴史関係資料の調査（村山担当）
- (3) 香川県と南ボヘミアの溜池に関する研究史の整理と現状の比較研究（新見担当）
- (4) 香川県と南ボヘミアのエコツーリズムに関する調査研究（原担当）

また、当該年度および3年間の継続課題として明らかにしようとすることは以下の通りである。

- (1) 当該社会における家族人口構造の特色を明らかにすることを通じて、エコツーリズムの実態分析において、ツーリズムによって期待される当該地域の経済効果が当該地域における人間関係に対する影響と地域活性化への効果を検証する方法を明らかにする。
- (2) また、エコツーリズムが具体的にどのような専門分野との協力関係において実現可能なものであるかを明らかにする。
- (3) さらに、南ボヘミアで見られるような溜池の構築構造における生態系重視のあり方を工学的な見地からも可能な限り明確にする。
- (4) そして最後に溜池経済地域の文化の歴史が如何に希少な地域資源であるかを明らかにする。

平成20年度：

前年度の基本調査を踏まえ、本年度は、具体的な交流関係に必要な情報の整備を行う。そのため、南ボヘミア大学の学長ならびにその他の関係者との交渉あるいは具体的な交流協定等締結ための基礎固めを目的として、チェコ共和国を訪問する。また、その際、可能な限りで新たな資料を収集する。

特に今年度は、前年度の成果を踏まえて、具体的な交流関係の継続のための次年度以降の年度計画を明らかにし、さらに、必要とされる資金等の確保の可能性を明確にする。

また、前年度の課題設定を踏まえて、今年度は以下の点について、より具体的な成果を明らかにする。

- (1) 前年度に開発した方法に基づきエコツーリズムが社会に与える影響に関する調査を行う。
- (2) 複数の専門分野の協力可能性を明らかにする。
- (3) 南ボヘミアで見られるような溜池の構築構造における生態系重視のあり方と今後の可能性を明らかにし、備讃瀬戸地域での応用可能性を明確化する。
- (4) さらに初年度からの継続課題として、溜池経済地域の文化の歴史が如何に希少な地域資源であるかを明らかにする

平成21年度：

当該年度は、報告書のとりまとめを行う。特に、その報告書をまとめる過程において、今後の新たな展開への基礎固めを行う。つまり、具体的な交流協定締結などにむけて、同時進行を予定している科学研究費等の獲得に基づく学術研究をさらに展開し、さらに次年度に向けて、可能な限り香川大学からも、国際交流基金など別建ての教育研究費の支援を受けることにより、具体的な教育研究の交流関係を確立するための基礎固めを行う。

競争的研究資金等の獲得状況（研究組織全員について記入）

(1) 文部科学省科学研究費補助金 申請・採択状況

(※研究代表者としての申請・採択について全て記入し、本特別奨励研究に関連するものを2段目に記入)

年度	新規申請	採 択 状 況
H17	2 件	新規 件／継続 2 件／交付額合計 2,200 千円
うち関連	2 件	☐ 有（ ☐ 新規 ☐ 継続／交付額 2,200 千円／研究種目 基盤研究 B ほか） ☐ 無
H18	2 件	新規 件／継続 2 件／交付額合計 2,000 千円
うち関連	2 件	☐ 有（ ☐ 新規 ☐ 継続／交付額 2,000 千円／研究種目 基盤研究 B ほか） ☐ 無
H19	3 件	新規 3 件／継続 件／交付額合計 23,000 千円 (予定)
うち関連	件	☐ 有（ - ☐ 継続／交付額 千円／研究種目) (予定)

(2) 学会賞等各賞の受賞状況等（賞名，実施機関名，年月他）

本経費に申請する理由等（該当するものにチェックし、その理由等を記述）

☐ 長期的な観点での取組が必要な研究

本研究は、各研究者の専門性を活かした本格的な調査研究に基づき、大学を中心としてその周辺地域を巻き込んだ長期的な交流関係の構築を目指すことを課題にしている。通常の学術研究と異なり、学術研究の成果を現実の地域活性化へと結びつける可能性を常に模索するところにその独自性がある。また、急激な市場化により大きく変容しつつある南ボヘミアと新たな市場経済の展開が期待される香川県備讃瀬戸を比較することにより、短期的な視点ではなく、長期的な視点において、継続的な創発的活動の可能性を探ることも課題としている。そのため長期的な観点での取り組みが必要である。

具体的には、溜池経済地域の将来を念頭に、本格的な学術研究を同時に遂行できる超学際的なエコツアーリズムを実現し、より美的でよりよい生活空間の実現を目指す。さらに本研究助成による3年間の準備期間の研究成果に基づいて、大学間ならびに地域間の様々な交流関係の構築を目指す。その意味でも、長期的な取組が必要である。

世界に二つとない溜池経済地域の学術的かつ文化的な相互交流は、地域文化の質を向上させ豊かにすると確信する。すでに研究代表者は、交流相手である南ボヘミア大学の歴史学者である学長との意見交換を通して、将来の継続的な交流関係の実現可能性を確約している。また同時に、個々の専門分野においては、科学研究費等の獲得を目指すのは当然であり、より個別の専門分野の研究については、すでに科学研究費等の応募も行っており、また同時に大学や行政からの支援を受けられることが期待される。

☐ 平成18年度科研費に採択されなかったが将来発展性が期待される研究

研究経費の明細						
研究計画別	備 品 費		消 耗 品 費		そ の 他	
	品 名	金額	品 名	金額	品 名	金額
南ボヘミアにおける資料調査		千円		千円	海外渡航旅費 (日本－チェコ共和国3年間で計4回@300千円)	千円 1,200
資料整理					データ処理に関する謝金 (212 時間@940 円)	199
研究のまとめ					成果報告書印刷	100
	計	0	計	0	計	1,499
				総 額 1,499 千円		

特別奨励研究経費申請に係る研究実績

研究業績

最近3カ年間（平成16年度～平成18年度）に学術誌等に発表した論文、著書のうち本計画に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼって記入してください。なお、この頁で記入できない場合は、コピーしてください。

発表論文名・著書名

（論文名、著書名、著者名、学協会誌名、巻(号)、最初と最後のページ、発表年(西暦)について記入してください。）

（以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略(省略する場合、その員数と、掲載されている順番を○番目と記入)しても可。なお、研究代表者及び研究分担者にはアンダーラインを付すこと。）

○ 村山 聡

1. “Smallpox quarantine houses in 18th and 19th century Amakusa Islands, Kyusyu, Japan,” Satoshi Murayama, presented at the Sixth European Social Science History Conference, in March 22-25, in Amsterdam (Netherlands) 2006.
2. 「中近世ドイツ地方史からみた相続慣習」村山 聡, 国方敬司編『家の存続戦略と婚姻』早稲田大学出版会（近刊）, 2006.
3. 「ヨーロッパにおける主従関係と住民把握の論理」村山 聡, 笠谷和比古編『公家と武家』思文閣出版（近刊）, 2006.
4. 「海の支配と隠れキリシタン」村山 聡, 落合恵美子編『徳川日本の家族と地域性』ミネルヴァ書房（近刊）, 2006.
5. 「マイクロスタディはドイツ研究に何をもたらすか」村山 聡, 『ドイツ研究』No.39, pp.36-51, 2005.
6. “Determinants of inheritance patterns in Japanese pre-industrial societies,” Satoshi Murayama, presented at the 20th International Congress of Historical Sciences (CISH), Sydney (Australia). July, 2005.
7. “Zwischen dem neuen Steuerstaat und der mittelalterlichen Tradition: Der Beitrag einer bürgerlichen Advokatenfamilie zur Gründung des Stadtgerichtes in Elberfeld von 1708,” Satoshi Murayama, presented at an international conference on <Staatsbildung von unten: Europa 1300-1900>, Monte Verità, Ascona (Switzerland). September, 2005.
8. “Marriage market in a comparative perspective,” Satoshi Murayama, presented at the 30th Annual Meeting of the Social Science History Association, in November 03-06, Portland (USA), 2005.
9. “The Thirty Years War and a change of marriage pattern in a reformed church in Germany,” Satoshi Murayama, presented at the 29th Annual Meeting of the Social Science History Association, in November 18-21, Chicago (USA), 2004.
10. “Inhabitants in comparative perspective. Religious registration and population register,” Satoshi Murayama, presented at the Fifth European Social Science History Conference, in March 24-27, Berlin (Germany), 2004.

○ 新見 治

1. 「河川・湖沼・地下水」新見 治, 『日本の地誌1・日本総論I・自然編』朝倉書店, 2005.
2. 「国分寺町の地理的性格、自然景観、水文環境など」新見 治, 『国分寺町誌』国分寺町教育委員会, 2005.
3. 「平成16年度台風による香川県内のため池の被災と検討課題」森下一男・新見 治ほか（4名, 2番目）, 『香川大学平成16年度台風災害調査団報告書』2005.
4. 「地域の水問題－水管理の在り方を考える」新見 治, 『地理』, 第49巻2号, pp.40-45, 2004.
5. 「持続的な水利用と水利社会の再構築－讃岐平野の事例－」新見 治, 『日本水文科学会誌』, 第34巻第2号, pp.91-102, 2004.

○ 原 直行

1. 「グリーン・ツーリズム事業における経営課題の克服に向けて」梶脇裕二, 原 直行（2名, 2番目）, 香川大学経済論叢, 第79巻2号, pp.149-176, 2006.
2. 「日本におけるグリーン・ツーリズムの現状」原 直行, 香川大学経済学部研究年報, 第45号, pp.93-132, 2006.
3. 「ヘドニック法による大都市農地の外部効果の計測」原 直行, 加藤弘二（2名, 1番目）, 香川大学経済論叢, 第78巻1号, pp.33-49, 2005.
4. 「近代イギリスにおける「Rural Idyll」について」原 直行, 香川大学経済論叢, 第77巻2号, pp.197-214, 2004.

